

Sinfonia

シンフォニア

Ton Koopman
Amsterdam Baroque Orchestra & Choir

トン・クープマン 指揮

アムステルダム・バロック管弦楽団 & 合唱団

「ロ短調ミサ」



Amsterdam Baroque Orchestra



Amsterdam Baroque Choir

Close Up

3大協奏曲 2019 ~次世代を担う未来の巨匠たち~ インタビュー

アムラン ショパンピアノ協奏曲 1番 & 2番 インタビュー

ダニエル・ハーディング指揮 パリ管弦楽団

関西紅白オペラ歌合戦

ほか

- 2 3大協奏曲 2019 ～次世代を担う未来の巨匠たち～ インタビュー
- 4 トン・コープマン指揮 アムステルダム・バロック管弦楽団&合唱団 「口短調ミサ」
- 5 ダニエル・ハーディング指揮 バリ管弦楽団
- 6 ショパン国際ピアノコンクール 第2位アムラン ショパンピアノ協奏曲1番&2番 インタビュー
- 7 ブルーノ＝レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル
古澤巖×ベルリン・フィルハーモニー ヴィルトゥオーゾのクリスマス
- 8 関西紅白オペラ歌合戦 インタビュー
- 10 三浦一馬 キンテート クリスマス・スペシャル・ナイト インタビュー
- 11 東京佼成ウインドオーケストラ 第3回大阪定期演奏会 インタビュー
- 12 関西フィル 第4回親子定期演奏会 インタビュー
- 13 日野原重明プロデュース 「ペー・チェチョル コンサート」
細川千尋ジャズライブ CLASSIC×JAZZ インタビュー
- 14 プロジェクションマッピング×パイプオルガン
帰ってきた!! 超絶のスター・ウォーズ やっぱ、パイプオルガンがスゴ過ぎる!!
ボニー・ジャックス結成60周年記念コンサート -昭和歌暦- とともに歌おう!心ゆかしき昭和の調べ インタビュー
- 15 BACH IS IN THE AIR～バッハとジャズが出会う時～イタリアを騒然とさせたあの男たちがついに初上陸!!
美しき日本のうた 「秋の月」
シャンソン・セレクション 2018
- 16 The Symphony Hall Artist in Residence 対談インタビュー
- 18 ABCテレビ主催公演・イベント情報
- 22 日本センチュリー交響楽団
- 24 welcome more musicians!音楽を愛する団体が集うザ・シンフォニーホール
- 25 ホールトピックス
- 26 堀江政生のシンフォニア・アワーVol.28
- 27 Concert Calender 2018.7～9

7月のSinfonia会員先行予約

- 先行予約:7月26日(木)10:00AM～
※Sinfonia会員先行予約期間中は、電話・WEBのみのご予約となります。
※ザ・シンフォニー チケットセンター窓口、館内プレイガイドでの販売はございません。
※Sinfonia会員先行期間中にご予約されたチケットは、すべて郵送でのお届けとなります。
●電話:ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (10:00～18:00 火曜定休)
●WEB:http://www.symphonymall.jp/

シンフォニア会員登録方法

シンフォニア会員にご登録いただきますと、先行予約のご利用、シンフォニアのお届け、メールマガジンの受け取り等お得な特典をご利用いただけます。ぜひご登録ください!

▼ WEBサイトからのご登録

ザ・シンフォニーホール ホームページ
http://www.symphonymall.jp/ からご登録下さい。

▼ ハガキでのご登録

定型ハガキに右記の情報を記載いただき、62円切手を貼付の上、ポストに投函ください。

※手続き完了後、約2週間でご登録の完了通知、シンフォニア最新号をお送り致します。

※携帯端末のメールアドレスをご登録いただく場合、受信設定をしている方はメールが受信できない場合がございます。[@symphonyhall.jp]をドメイン指定受信して下さい。指定方法はご利用の携帯電話会社にお問い合わせください。

【お客様の個人情報の取り扱いについて】株式会社ザ・シンフォニーホールでは、次に掲げた内容にしたがって、個人情報の保護に努めてまいります。○お客様からご提供いただいた個人情報については、個人情報に関する法令、規程に則り適正に管理いたします。○お客様からいただいた個人情報は、以下の目的のために使用し、それ以外には一切使用いたしません。(1)シンフォニア会員様への情報誌「シンフォニア」および関連する印刷物の発送(2)ザ・シンフォニーホールで開催する事業を案内する印刷物の発送(3)ホールなど施設の利用に関するご案内、ご連絡(4)ザ・シンフォニーホールの事業、サービスの開発・改善を目的とした調査・研究のためのアンケートの送付・分析・データ集積(5)チケット予約販売に伴う、ご本人確認およびご連絡(6)株式会社ザ・シンフォニーホールに関するご案内の発送○個人情報の提供はご自身の意思でご本人様が行うものといたします。○お客様の個人情報を、適正かつ迅速に処理するため、その作業を外部の企業に委託して行うことがあります。その場合、委託先において個人情報安全に管理されるよう適切に監督します。

表紙の一枚「トン・コープマン指揮 アムステルダム・バロック管弦楽団&合唱団 「口短調ミサ」

※記載内容は変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

2018年度下半期も 一流オーケストラ、プレイヤーが続々登場! ザ・シンフォニーホールのステージをお見逃しなく!!

[ご予約]
ザ・シンフォニー
チケットセンター
06-6453-2333
(10:00～18:00 火曜定休)

The Symphony Hall

バッハに新たな輝きを与えるコープマンの音楽

2018.9/7(金) 7:00PM 詳しくはP4へ

トン・コープマン指揮
アムステルダム・バロック
管弦楽団&合唱団
「口短調ミサ」

J.S.バッハ:ミサ曲 口短調 BWV232

並外れた技巧・解釈で魅了する稀代のピアニスト

2018.11/10(土) 3:00PM

エフゲニー・キーシン
ピアノ・リサイタル

ベートーヴェン:ピアノソナタ 第29番 変ロ長調 「ハンマークラヴィア」op.106 / ラフマニノフ:10の前奏曲 op.23より / 13の前奏曲 op.32より

世界大注目の若きマエストロとの初共演に期待大!

2018.11/24(土) 7:00PM 詳しくはP11へ

東京佼成ウインドオーケストラ
第3回大阪定期演奏会

J.バーンズ:呪文とトッカータ / J.ヴァンデルロースト:交響詩「スバルタクス」 / M.アーノルド(近藤久敦編曲):ピータールー序曲 / M.ムソルグスキー(高橋徹編曲):組曲「展覧会の絵」

関西の実力派オペラ歌手たちによる真剣勝負

2018.12/29(土) 3:00PM 詳しくはP8-9へ

関西紅白オペラ歌合戦

ビゼー:歌劇「カルメン」より 恋は野の鳥 / ブッチェーニ:歌劇「トスカ」より 歌に生き、恋に生き / レオンカヴァッロ:歌劇「道化師」より ごめんください、皆様方 ほか

春の訪れを壮大なアンサンブルで鮮やかに彩る

2019.2/22(金) 7:00PM 詳細は決定次第発表

大植英次指揮×
大阪フィルハーモニー交響楽団
「シェエラザード」×「春の祭典」

リムスキー＝コルサコフ:交響組曲「シェエラザード」 op.35 / ストラヴィンスキー:バレエ音楽「春の祭典」

大作曲家一族の血を引くマエストロとの魂の競演

2018.9/22(土) 1:30PM

ロシア国立交響楽団
エフゲニー・スヴェトラーノフ記念

ストラヴィンスキー:バレエ音楽「火の鳥」(1919年版) / ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18 / チャイコフスキー:交響曲 第5番 ホ短調 op.64

大巨匠が紡ぎ出す、世界に君臨する伝統の響き

2018.11/17(土) 2:00PM

サンクトペテルブルグ・フィル
ハーモニー交響楽団
×ユーリ・テミルカーノフ指揮

シベリウス:ヴァイオリン協奏曲 二短調 op.47 / チャイコフスキー:交響曲 第5番 ホ短調 op.64

超一流名手たちによる華やかな音のスペクタクル

2018.12/19(水) 7:00PM 詳しくはP5へ

ダニエル・ハーディング指揮
パリ管弦楽団

ベルク:ヴァイオリン協奏曲
マーラー:交響曲第1番 二長調「巨人」

若きヴィルトゥオーソの夢の競演、再び!

2019.1/6(日) 2:00PM 詳しくはP2-3へ

3大協奏曲 2019
～次世代を担う未来の巨匠たち～

ハイドン:チェロ協奏曲第1番 ハ長調 Hob.VIIb:1 / チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.35 / ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 op.18

実力派たちが繰り広げる豊かな第3番

2019.3/21(木・祝) 2:00PM 詳細は決定次第発表

日本センチュリー交響楽団
×ザ・シンフォニーホール
「ラフマニノフ×サン＝サーンス」
2つの第3番

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第3番 二短調 op.30 / サン＝サーンス:交響曲第3番 ハ短調 「オルガン付き」 op.78

and more...

関本 二人とも桐朋学園。僕が一年上で、昔から源くんファン。「誰かいいチェリストいない？」と聞かれると、まず彼の名前が浮かびます。

横坂 学生時代、みんなでワイワイやってるなか、関本くんは先頭を切って音楽界に入った人でした。彼のリサイタルを友達と一緒に聴きに行き、それからごはんを食べたりしましたね。

関本 ハイドンのチェロ協奏曲の一番を、桐朋学園音楽部門の50周年記念演奏会の時に小澤征爾さんの指揮で源くんが弾いたのです。その出だしは今でも忘れられない！

横坂 怖いもの知らずで…。

互いを尊敬し合う良き友人

SPECIAL.2

関本昌平×横坂 源 Interview

撮影・磯石倫子
撮影協力：(株)ヤマハミュージックジャパン ピアノアーティストサービス東京



関本 あのリズム感！気品があり、とても自由だった。

横坂 中学三年生の気品（笑）。今回の3大協奏曲コンサートでは、そのハイドンの曲を演奏します。

2017年のコンサートを振りかえって

関本 チャイコフスキーの1番のピアノ協奏曲でした。学生時代から何回も弾いているコンチェルト、気持ちよく演奏できました。

横坂 僕はドヴォルザークを演奏しました。団員の方々の楽曲に対する熱意を感じ、リハーサル時からみんな音声を聞き合ひながら、対峙するようでした。

関本 本日に素晴らしいコンサート



3大協奏曲 2019

～次世代を担う未来の巨匠たち～

Interview

2017年、ザ・シンフォニー・ホールの開館35周年記念公演として行なわれ、超満員を記録した、若きヴィルトゥオーソたちの協演「3大協奏曲 ～次世代を担う未来の巨匠たち～」が 2019年も開催決定！ここでは、前回コンサートを盛り上げた、関本昌平と横坂 源の対談、そして川久保賜紀のインタビュー、スペシャル2本立てをお届けする。

横坂 しかも超満席！

関本 大入袋もいただきました。ザ・シンフォニーホールは広いのですが、ホールとの一体感を覚えるよね。

横坂 客席から伝わってくる期待感、高揚感がステージへ直接届くので、エキサイティングな場所が好きです。

2019年のプログラムについて

横坂 ハイドンは、前回演奏したドヴォルザークとは対照的です。オーケストラとソロがぶつかり、うねりを作り上げてゆくドヴォルザークに対して、ハイドンはオーケストラと同じ方向を見ながら紡ぎ出していきます。フレーズからはピアノな美しさを感じられ、また遊び心が随所に散りばめられているところに多くの人々が長年魅了され続けているのだと思います。

関本 ピアノの和音に始まり、そのあとピアノは伴奏の役割となります。伴奏なのに、あんなにうねるか、と（笑）。その出だしの伴奏は、オーケストラに対してピアノの音域がとても広いのです。この音域の幅広さは、ロシア音楽らしい響きです。ラフマニノフは、一度聴けば誰でも覚えらるるほどに美しいメロディを書くことのできる作曲家。さまざまなパートのソロとの掛け合いや美しい歌があり、一方でピアノスティックに激しい部分もあり、さまざまなコン

SPECIAL.1

川久保賜紀 Interview



ザ・シンフォニー・ホールの新春を彩る「3大協奏曲」次世代を担う未来の巨匠たち」。川久保賜紀は、2002年、第12回チャイコフスキー国際コンクールで最高位を獲得したヴァイオリン協奏曲を演奏する。彼女とこの作品との出会いは、14歳の時であった。

「チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲は、私にとって憧れの曲であり、やつと勉強できると胸を弾ませていました。しかし、いざさらいはじめると、なんて大曲なのだろうと驚くと同時に、本当に弾けるようになるのかな…と思いました」

ちょうどその頃、ドイツのリューベックで教えていたザハール・ブロン先生に師事することになった川久保が、師の前で最初に演奏した曲が、このヴァイオリン協奏曲だった。「その頃は、まだロシアへ行ったことはありませんでした。でも、楽譜を読み進め、音楽を作っていくうちに、チャイコフスキーの生まれ故郷であるロシア

アの風景が少しずつ想像できるようになりました。まるでロシアそのものの色、味、情熱…これらすべてが溢れているような感じでした」

日本センチュリー交響楽団とは何度も共演を重ねている彼女だが、指揮の山下一史とは今回が初共演とのこと。さらに、関本昌平と横坂源と一緒に舞台上立つのは初めてだ。

「今回、対談に参加できなくて残念でしたが、コンサートで皆さまにお会いできるのをとても楽しみにしています」

そして、昨年人気を博したこの3大協奏曲コンサートへの出演に期待を寄せる。

「素敵なザ・シンフォニー・ホールで、豪華メンバーと一緒に、この演奏会に参加できることをとても光栄に思います。チェロ、ヴァイオリン、ピアノの名曲を1日で聴くことができ、贅沢なプログラムとなっております。みなさまのお越しをお待ちしています！」（取材・文 道下京子）

トラストが聴きどころです。3番は何度か演奏しているのですが、2番は意外と弾くチャンスがなく、今回が初めて！源くんは、ハイドンをコンサートでは弾いたことあるの？

横坂 小学校5、6年生の頃に初めて弾きました。

関本 チェロを弾く人は、みんなその曲をやるの？

横坂 みんな、必ず通る道。耳なじみも良くて素晴らしい曲なんだけれども、音1つ1つの純度を磨いて、曲のムードに心を躍らせるための高い技術と精神が大切なんだと思う。

コンサートを心待ちしているお客さまへ

関本 3種類の楽器のコンチェルトを同時に聴く機会はありません。僕らも一緒にコンサートをする機会はめったにありません。とても贅沢なプログラムですので、楽しんでいただければと思います。

横坂 前回、「コンサートの花束みたいだね」と3人で言っていたと思います。今回も関本ちゃんと川久保さんと華やかなコンサートにしたい。前回とは曲目もガラッと違いますので、たくさんの方に足を運んでいただけたらとても嬉しいです。

（取材文 道下京子）



[チェロ] 横坂 源 [ヴァイオリン] 川久保賜紀 [ピアノ] 関本昌平
[指揮] 山下一史 [管弦楽] 日本センチュリー交響楽団

ハイドン:チェロ協奏曲第1番 八長調 Hob.VIIb:1
チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.35
ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 八短調 op.18

2019.1/6(日) 2:00PM

S 6,480円 A 5,400円 B 4,320円 (税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

先行予約:7/26(木) 一般発売:7/29(日)

トン・コープマン指揮

アムステルダム・バロック 管弦楽団&合唱団 「口短調ミサ」

古楽の巨匠トン・コープマンがバッハの
最高傑作に命を吹き込む



古楽界の巨匠、トン・コープマンがアムステルダム・バロック管弦楽団&合唱団とともにまもなく来日する。曲目はバッハの大作、「口短調ミサ」。この決定的な名作をコープマンの指揮で聴けるとは、待ち遠しいかぎりである。

アムステルダム・バロック管弦楽団はトン・コープマンが自ら創設した古楽専門のオーケストラだ。創設は1979年、コープマンが25歳の頃まで遡る。作曲家が生きていた頃の楽器や演奏法を用いるという彼らの新機軸は、芸術文化都市アムステルダムの進取の気性に富んだ土地柄を背景に大きく花開くことになった。清澄で色彩感豊か、みずみずしくニュアンスに富んだ彼らのサウンドは、バッハをはじめとする古い時代の音楽を、色鮮やかに蘇らせる。

しかし、彼らの最大の魅力は、楽器や演奏法の違いよりも、むしろコープマンという音楽家のパーソナリティにあるのではないだろうか。コープマンの音楽の特徴をひとこと言ってしまうと、ずばり、楽しい！音楽のすみずみにまで生命力がみなぎり、愉悅にあふれている。陽気な音楽はますます楽しく、悲しみの音楽にすら希望の光を感じさせるのがコープマンだ。バッハの宗教曲のようないくつか、一見厳めしく思えるような音楽も、コープマンの手にかければ、とたんにフレンドリーな音楽に思えてくる。

今回演奏されるバッハの「口短調ミサ」は、同じバッハの「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」と並ぶ、宗教音楽の大傑作である。以前、コープマンは「バッハは史上最高の作曲家。バッハの曲を演奏すればするほど、彼のような天才に対して自分がどんな小さい人間に思えてくる」と語っていたが、どんな音楽家であれ、バッハの「口短調ミサ」に向き合えば、畏怖の念に打たれることだろう。この作品を人類が生み出した宗教音楽の最高峰に挙げる人も少なくない。

しかし、なかには宗教音楽と聞くと、「クリスチャンではない自分に感動できるだろうか？」と躊躇する方もいるかもしれない（クリスチャンの方はなんの迷いもなく聴いてください！）。でも心配は無用だ。この曲は「ミサ曲」、つまりラテン語の典礼文を歌詞としており、折りの言葉はあっても、具体的なストーリーがあるわけではない（このあたりが「マタイ受難曲」や「ヨハネ受難曲」と大きく事情が異なるところ）。その分、純然たる音のドラマとして曲を受け入れやすい。そして、バッハの音楽

自体が十分に雄弁で、宗教の違いを超越して聴く人の心に訴えかけてくる。

合唱団の清澄な歌唱も聴きどころ。透明感のある美しいハーモニーを響かせてくれることだろう。

「このたび18年振りにアムステルダム・バロック管弦楽団と合唱団合同での来日公演が行えること、しかも音楽の世界遺産 J. S. バッハの「口短調ミサ」を日本の皆様にお聴きいただけることを心から幸せに思います。ザ・シンフォニーホールの間で皆様とともに忘れえない音楽体験をご一緒できること、心待ちにしております」——トン・コープマン

(文 飯尾洋二)

発売中

[指揮] トン・コープマン [ソプラノ] マルタ・ボス
[カウンターテナー] マルテン・エンゲルチェス
[テナー] ティルマン・リヒティ [バス] クラウス・メルテンス
[管弦楽] アムステルダム・バロック管弦楽団
[合唱] アムステルダム・バロック合唱団 ※ソプラノは当初発表から変更になりました。

J.S. バッハ: ミサ曲 口短調 BWV232

2018.9/7(金) 7:00PM

S 14,000円 A 9,000円 B 5,000円(税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] AMATI / ザ・シンフォニーホール

MIKIMOTO 第59回 日本赤十字社 献血チャリティコンサート

ダニエル・ハーディング指揮 パリ管弦楽団

Daniel Harding Orchestre de Paris

新たな名コンビがザ・シンフォニーホールに登場。

万全の布陣と選曲で贈る華麗な饗宴に期待!



パリ管弦楽団

©William Beaucardet

©Julian Hargreaves



指揮 ダニエル・ハーディング

オーケストラの国際化が世界的に進む中で、名門パリ管弦楽団は、木管主体の色彩豊かで官能的なフランスの薫りを頑なに保持している。当然、歴代音楽監督もフランス人がずらりと思いきや、初代のミュンシュ以外は、すべて非フランス系というのが興味深い。

そんな同管の音楽監督を2016年から務めるのが、イギリスの若き巨匠ダニエル・ハーディング。「2015年に新設された本拠地で、レベルが高く創造性の豊かな団員と共に新たな音楽を希求したい」と意気込んでおり、就任間もない同年11月に早くも初来日。ザ・シンフォニーホールのステージにも登場し、絶賛を博した。

今回の演目は、現代最高のヴァイオリニストの一人、イザベル・ファウストがソロを弾くベルクの協奏曲「ある天使の思い出」と、マーラーの交響曲第1番「巨人」。実はハーディング、音楽監督に就任する直前の同管の公演でも前半にファウストと同曲を共演し、後半にマーラーの交響曲第4番を披露。その成功が音楽監督への選出に繋がったと言われているのだ。

ウィーンの作曲家ベルクが1935年に作曲したヴァイオリン協奏曲は、彼が完成した最後の作品。副題の「天使」は、マノンという女性を意味し、後述するマーラーの元妻が、2人目の夫との間に産んだ一人娘にあたる。親交のあったベルクも彼女

を大変可愛がっていたが、病のため18歳で急逝してしまい、彼は本作をレクイエムに捧げたのだ。2つの楽章には、マノンの生前の愛らしい姿と闘病生活、そして死による浄化が神秘的に描かれている。

ファウストにとって本作は、過去にハーディングの恩師アバドが指揮するモーツァルト管と録音も行った十八番。この録音でも、ハーディングとの共演でも、持ち味の美しい音色が変幻自在に飛翔していた。その妙技がさらに洗練を極め、ザ・シンフォニーホールの豊かな残響の中で咲かせる大輪の花に、今から胸が高まる!

そしてハーディングが、日本でも様々なオーケストラと名演を残してきたマーラー。交響曲の歴史に大きな足跡を残した作曲者の第1作目にあたる本作の副題は、彼が当時愛読していたJ.パウルの同名小説に由来。長編が多いマーラーの交響曲の中で、本作は演奏時間が1時間前後



ヴァイオリン イザベル・ファウスト

©Felix Broede

[指揮] ダニエル・ハーディング
[ヴァイオリン] イザベル・ファウスト
[管弦楽] パリ管弦楽団

ベルク:ヴァイオリン協奏曲/マーラー:交響曲第1番 二長調「巨人」

2018.12/19(水) 7:00PM

S 19,440円 A 16,200円 B 12,960円 C 売切 プレミアム 25,920円 (税込)

[ご予約・お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

[共催]公益財団法人ソニー音楽財団

発売中

と短く、4つの楽章がいずれも若々しく親しみやすいので、初めて聴く方にもおすすめの傑作だ。

筆者はハーディングが本作を指揮した映像や実演に接したが、いずれもストリートで緻密な音楽作りが秀逸で、最終楽章の狂乱の場面でもアンサンブルが整然と構築されていたのが彼らしかった。

そこにパリ管の「色」や「華」が加わるであろう今回の公演では、本作の真髓にさらに迫った記念碑的な名演を期待してほしい!!

(文 渡辺謙太郎)

Interview

ショパン国際ピアノコンクール 第2位 アムラン ショパンピアノ協奏曲1番&2番

満員のザ・シンフォニーホールを静かな熱狂で包んだアムラン
この秋、ショパンのふたつのコンチェルトを弾く



シャルル・リシャール＝アムラン

Charles Richard Hamelin



2018年5月12日。超満員の客席から大喝采を浴びた。

2015年、ショパン国際ピアノコンクールで第2位を獲得したシャルル・リシャール＝アムラン。今年5月にはオール・ショパン・プログラム「革命」でザ・シンフォニーホールに登場。満場の客席を静かな熱狂で包み込み、鳴り止まない拍手と歓声に3回に及ぶアンコールで応えた彼が、早くもこの秋、ステージに帰ってくる。今回彼が弾くのはショパンの2曲のピアノ協奏曲。ショパンが19歳と20歳で書き上げた、青春の熱情を色濃く湛えた作品である。

「ショパンのピアノ協奏曲が他の作曲家のものとは大きく違う点は、普通、ピアノ協奏曲ではオーケストラとピアノのダイアログ（対話）が主体となるのですが、ショパンの場合は終始、ピアノのモノログ（独白）をオーケストラが支えるという形で書かれていることです。評論家の中にはこれを批判する人もいるのですが、私たちピアノニストはこれらの作品が遺されたことにより、ピアノの機能と魅力が余すところなく聴衆に届けることができるのです。ベートーヴェンの死後、間もない時代に、ショパンはあの若さでピアノという楽器に何ができるかということを十分に知っていました。これは驚くべきことだと思います」

ひとつひとつの言葉をていねいに時に考え込むようにアムランは語る。その横顔に謙虚な人柄が覗く。

ショパン・コンクールのコンテスタントは本選で、ふたつの協奏曲のどちらかを弾く。アムランが弾いたのは「第2番」。その時の思い出を聞いてみた。

「日本のお客さまは静寂に対する気遣いをよく知っています。椅子に腰を下ろした瞬間にさっと雑音がなくなるので、私はいつも最適な環境の中で音楽を始めることができます。お客さまがもっともつとショパンを好きになってくれたら嬉しい。そう思いながら弾いています」

（取材・文 逢坂聖也／音楽ライター）

発売中

[ピアノ] シャルル・リシャール＝アムラン
[指揮] 佐藤俊太郎 [管弦楽] 大阪交響楽団

ショパンピアノ協奏曲第1番 ホ短調 op.11 / ピアノ協奏曲第2番 ヘ短調 op.21

2018.9/14 (金) 7:00PM

S 6,480円 A 5,400円 B 4,320円 (税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール／一般社団法人 大阪交響楽団／

日本アーティスト

ブルーノ＝レオナルド・ゲルバー



ブルーノ＝レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル

巨匠ゲルバーが奏でる不朽の傑作。
7年ぶりにザ・シンフォニーホールに登場!

発売中

【ピアノ】ブルーノ＝レオナルド・ゲルバー

ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 op.27-2 《月光》/ピアノ・ソナタ 第21番 ハ長調 op.53 《ワルトシュタイン》/シューマン:謝肉祭 op.9/ショパン:アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ op.22

2018.10/14(日) 2:00PM

S 5,400円 A 4,320円 (税込)

【ご予約・お問合せ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

次々と新星がデビューするピアノ界にあつて、成熟した演奏をじっくり聞かせる巨匠ピアノリストたちの存在はひととき輝きを放つ。1968年初来日以来、深化をとげてきたアルゼンチン出身のブルーノ＝レオナルド・ゲルバーはそんなピアノリストの筆頭格だろう。若くして稀代のベートーヴェン弾きとして注目を浴び、知的な解釈、深みのある重厚な音色、そして琴線に触れる抒情味あふれる歌心を備え、長年の間、多くのピアノファンを惹きつけてきた。

今回、ザ・シンフォニーホールには7年ぶりの登場となるが、これぞピアノの名曲!という王道プログラムを揃えてきた。ベートーヴェンのピアノ・ソナタの《月光》と《ワルトシュタイン》は不朽の傑作。これまで幾多の奏者が名演を聞かせているが、ゲルバーは美しくしなやかなタッチによって現代的センスにあふれたベートーヴェンを聞かせてくれるだろう。

続く《謝肉祭》は、シューマンのピアノニズムの粋を集めた名曲中の名曲。ゲルバーはロマン派の豊かな感情表現とユーモアを備えたシューマンのような音楽も得意としているから、こちらも楽しみである。

そしてリサイタルの締めくくりはショパンの人気曲《アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ》である。今年来日50周年となるゲルバーはますます円熟味を増した大人のピアノで、聞き慣れた名曲の新しい魅力を伝えてくれるに違いない。

(文 伊藤制子)

古澤巖×ベルリン・フィルハーモニー ヴィルトウオージのクリスマス

神のヴァイオリン&世界最高峰オーケストラの名手が
今年もクリスマスの宴を開催!!

【ヴァイオリン】古澤巖 【弦楽】ベルリン・フィルハーモニー ヴィルトウオージ

ロベルト・ディー・マリーノ:コンチェルト第2番、第4番(新作)/サン＝サーンス:死の舞踏/リムスキー＝コルサコフ:スペイン奇想曲より/Have Yourself a Merry Little Christmas ほか

2018.12/10(月) 7:00PM

S 6,500円 A 5,000円 (税込)

【ご予約】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【お問合せ】キョードーインフォメーション 0570-200-888

【主催】NHKプラネット/ザ・シンフォニーホール

先行予約:7/26(木) 一般発売:7/28(土)



クラシック、ジャズ、ポップス、雅楽と、あまりにも幅広く柔軟な活躍でおなじみ。人気実力派ヴァイオリニストの古澤巖が今年の冬もベルリン・フィル(以下BPO)の名手たちとザ・シンフォニーホールのステージでクリスマスの宴を開く!

古澤はチェロ用の短い弓を用いていることもあり、艶やかな音色と変幻自在の技巧が魅力。また、共演のベルリン・フィルハーモニー・ヴィルトウオージは、来年に創設40周年を迎え、BPOを代表する名手が歴代メンバーに名を連ねてきた。

今回は、帝王カラヤン時代からBPOに在籍するラウレンティウス・ディンカをはじめとした弦の精鋭5人が来日。黄金色のアンサンブルで、クリスマスにふさわしいゴージャスなひとときをお届けする。

演目に並ぶのは、リムスキー＝コルサコフの華々しい「スペイン奇想曲」や、名女優ジュディ・ガーランドが歌った「Have Yourself a Merry Little Christmas」のようなクリスマスソングの定番など、この季節ならではの傑作ばかり!と思いきや、サン＝サーンス「死の舞踏」のような意外な曲名も!

そして今回最も楽しみなのが、古澤と親交の深いイタリアの作曲家R. マリーノのコンチェルト第2番&第4番。しかも第4番は新作ということ、クラシックとタンゴやジャズを巧みに組み合わせる彼の作風の新境地に注目が集まる!

(文 渡辺謙太郎)

紅



▲北野加織(ソプラノ)
ロッシーニ:歌劇「セヴィリアの理髪師」より 今の歌声は



▲鬼一薫(ソプラノ)
山田愛子(メゾソプラノ)
オッフェンバック:歌劇「ホフマン物語」より 舟歌(二重唱)



▲畑田弘美(ソプラノ)
プッチーニ:歌劇「蝶々夫人」より ある晴れた日に



▲荒田祐子(メゾソプラノ)
ビゼー:歌劇「カルメン」より 恋は野の鳥(ハバネラ)



▲石橋栄実(ソプラノ)
J.シュトラウス:喜歌劇「こうもり」より 公爵様、あなたのようなお方は



▲梨谷桃子(ソプラノ)
ヴェルディ:歌劇「運命の力」より 神よ、平和を与えたまえ



▲木澤佐江子(ソプラノ)
梅 知加子(メゾソプラノ)
チレア:歌劇「アドリアーナル・クワールル」より 開けてくださいー愛していると。ええ、不安と燃え上がる激情で(二重唱)



▲斎藤言子(ソプラノ)
プッチーニ:歌劇「トスカ」より 歌に生き、恋に生き



▲並河寿美(ソプラノ)
ワーグナー:歌劇「タンホイザー」より 歌の殿堂

ベテランから若手まで
関西の実力派オペラ歌手が
勢ぞろい!

紅組指揮 石崎真弥奈



白組指揮 柴田真郁



司会 羽川英樹



管弦楽 大阪交響楽団 ロッシーニ:歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲

という意図があると感じたのは私だけではないだろう。

実は今回は残念ながら出演が叶わなかった人もたくさんいたと聞いている。「この人だって出場してもいいんじゃない?」という方もおられるだろう。かくいう私も、そう思うひとりではあるが、これも関西オペラ界の層の厚さともいえ、選考された方の苦勞が忍ばれ、またさまざまな期待が込められているともいえるのだろう。

贅沢で豪華な歌の競宴、
勝敗を決めるのはお客様!

またこのコンサートの最大の「売り」がまさしく『歌合戦』だ。「本家」と同じく紅白で勝ち負けを決めるというところで、出場する歌手たちがたった1曲の aria や重唱に集中した舞台を魅せる、なんとも贅沢で豪華な2時間半の真剣勝負の『歌の競宴』なのだ。もちろん審査員といわれる

人もいるのだが、勝敗を決するのは客席の観客のみなんだというのも「本家」とそっくり!観客の皆さんが、紅白どちらが良かったかの態度表明に直接参加できるのはやはり楽しい。オペラ通を自負している人はもちろん、たぶん普段オペラやコンサートに出かけない人でも充分に楽しめるはずだ。

指揮者(各組のキャプテンも務めるといふ)もちろん二人いて、紅組が石崎真弥奈、白組が柴田真郁という若手ながらオペラをよく知る指揮者だし、管弦楽は今、勢いを感じさせる大阪交響楽団が演奏することもある期待したいし、総合同会は、フリーアナウンサーの羽川英樹が務めるのも「本家」を彷彿とさせるところ。

初めて開催する『関西紅白オペラ歌合戦』、ひよっとしたら「本家」と同じく近い将来には本気で大晦日開催を狙っているのだろうか?このコンサートが人気企画となれば、それこ

贅沢な夢の競宴
この対決を聴かずして、年は越せない!!

2018.12/29(土) 3:00PM
S 7,020円 A 5,940円 B 4,860円 (税込)
[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333
[主催] ザ・シンフォニーホール
[協力] 一般社団法人 大阪交響楽団/公益社団法人 関西二期会/特定非営利活動法人 関西芸術振興会・関西歌劇団/堺シティオペラ一般社団法人
先行予約:7/26(木) 一般発売:7/29(日)

(文 三宅坂幸太郎)

関西紅白
オペラ
歌合戦

大晦日の夜の、あの国民的番組としてテレビ放送される『歌合戦』、楽しみにされている方も多いのではないだろうか?かくいう私は「オペラ版の『歌合戦』があったら…」なんて思っていたのだが、なんと関西でも今年の年末に開催されることが決定したという「大ニュース」が飛び込んできたから、喜ばずにはいられない!しかも日本最高峰の音楽の殿堂、ザ・シンフォニーホールで開催されるというのだ。

真剣勝負を繰り広げる盛大な
『オペラ・ガラ・コンサート』

「関西でも!」と申し上げたのは、東京では既に「昨年から同様のコンサートが始まっており、筆者は昨年の公演に出向いたのだが、まさに『歌の競宴』にふさわしい豪華なひとときだと感じた。それが関西に上陸するのだから、関西のオペラファン垂涎の公演となること請け合いだ。

「関西紅白オペラ歌合戦」と題したこのコンサートは、今注目の若手からベテランまで、関西を代表するオペラ歌手たちが所属カンパニーの枠を超えて一堂に会す。紅組と白組に分かれ、それぞれ11名ずつ、計22名登場して、オペラ aria や二重唱を続々と披露、真剣勝負を繰り広げるという盛大な『オペラ・ガラ・コンサート』なのだ。そういった意味ではとても稀有なコンサートだといってもいいだろう。

関西オペラ界のベテランから
実力派中堅勢、若手注目株まで

出場する歌手たちを挙げてみると、まずは石橋栄実、斎藤言子、並河寿美、畑田弘美、(以上、ソプラノ)、荒田祐子(メゾ・ソプラノ)、小餅谷哲男(テノール)、田中勉(バリトン)という一時代を築いた関西オペラ界が誇るベテラン勢たちが並ぶ。彼らの歌に心打たれ、臉に舞台姿が思い起こさ

せる瞬間があるに違いない。そして木澤佐江子(ソプラノ)、橋知加子、山田愛子(以上、メゾ・ソプラノ)、清原邦仁、谷浩一郎、二塚直紀、榎貴志(以上、テノール)、西尾岳史、萩原寛明(以上、バリトン)といった脂の乗りきった実力派中堅勢たちが控える。今や関西のオペラ界を引っ張っている彼らの歌声に酔いしれたいと思う人は多い筈だ。

さらにこの公演は、関西での声楽コンサートの発展と次世代のオペラ歌手の出演機会の向上も目的とし、鬼一薫、北野加織、梨谷桃子(以上、ソプラノ)、村松稔之(カウンター・テナー)、森寿美(バリトン)、湯浅貴斗(バス・バリトン)という、今後が期待される若手歌手たちも登場するという。決してこういうコンサートによくありがちな「オール・スター」歌手たちだけでなく、若手注目株にスポットライトを当てるといふところに、この企画に、オペラファンの拡大

白



▶森 寿美(バリトン)
ロッシーニ:歌劇「セヴィリアの理髪師」より 俺は、街の何でも屋



▶湯浅貴斗(バス)
グリム:歌劇「イワン・ササーニン」より ああ、気付かれた



▶清原邦仁(テノール)
プッチーニ:歌劇「トスカ」より 妙なる調和



▶萩原寛明(バリトン)
ワーグナー:歌劇「タンホイザー」より 夕星の歌



▲小餅谷哲男(テノール)
榎貴志(バリトン)
ヴェルディ:歌劇「ドン・カルロ」より われらの胸に友情を(二重唱)



▶村松稔之(カウンター・テナー)
モーツァルト:歌劇「フィガロの結婚」より 恋とはどんなものかしら



▲谷 浩一郎(テノール)
西尾岳史(バリトン)
ビゼー:歌劇「真珠探り」より 聖なる神殿の奥深く(二重唱)



▶二塚直紀(テノール)
ヴェルディ:歌劇「リゴレット」より 女心の歌



▶田中 勉(バリトン)
レオンカヴァッロ:歌劇「道化師」より ごめんください、皆様方(プロローグ)

Interview

三浦一馬 キンテート

クリスマス・スペシャル・ナイト

タンゴの歩みを、一夜にして楽しめる特別なプログラム

石田泰尚

山田武彦

大坪純平

高橋洋太

三浦一馬



Kazuma Miura Quinteto

「気鋭のバンドネオン奏者、三浦一馬が昨年に引き続き、今年も『三浦一馬 キンテート クリスマス・スペシャル・ナイト』を開催。コンサート前半は古典タンゴを、そして後半はピアノをテーマとしたプログラムだ。そもそも、古典タンゴとは何だろう？」

「タンゴは特にピアノ登場以降、現代的なものへと変わっていきました。古典タンゴで有名なのは、ロドリゲスの『ラ・クンパルシータ』。わかりやすい例えで言いますと、『ラ・クンパルシータ』や『エル・チョクロ』など、歯切れのいいリズムで2拍子か4拍子の、本来は踊りのための伴奏音楽です」

また、今日のモダン・タンゴの礎を形成したのは、ピアノソラである。

「ピアノソラは踊りのためのタンゴを、聴くためのタンゴへ昇華させました。彼は、世界を渡り歩いてゆくなかで、ジャズからロックまでさまざまな音楽のエッセンスを取り入れ、それまでとは異なるか違うところにタンゴを変化させ、それがモダンリズムをもたらしたとよく言われます」

今年のプログラムは、昨年の公演よりもどのようにパワーアップされたのだろうか。

「特に、僕の本領であるピアノソラの部分を。これから、ピアノソラの新譜をレコーディングしますが、秋には今まで弾いたことのない新しいレパートリーなどもたくさん揃えてツアーも行ないます。ツアーでは、プ

ログラムもすべて一新し、CDに収録した曲も弾きます。このザ・シンフォニー・ホールの公演は、ツアーのプログラムから独立した特別な選曲。昨年来てくださったお客様にも、また新鮮な気持ちでお楽しみいただけるように、すべて新しく、僕にとっても挑戦的なプログラムです」

タイトルの「キンテート」は、スペイン語で五重奏団の意味。ピアノソラ作品などを演奏する最もベーシックな編成だ。当日は三浦のほか、ヴァイオリンの石田泰尚、コントラバスの高橋洋太、ピアノの山田武彦、そしてエレキギターの大坪純平が出演する。

「僕が心から信頼している皆さまです。石田さんは僕がオーケストラ・デビューをした時にコンサートマスターでいらして、10年以上のお付き合いです。また、ホールではピアノはバンドネオンのうしろで見えないのですが、山田さんの音や気配だけですごく安心します。父的な感覚すらいつも感じています。高橋さんは最初のメンバーで、機会があるたびに一緒に演奏します。大坪さんは、もともとクラシックギターの奏者で、僕と共演するまではエレキをほとんど演奏していなかったそうです」

ザ・シンフォニーホールとバンドネオンとの相性については。

「このホールには素敵なパイプオルガンがあります。バンドネオンは、パイプオルガンがルーツの楽器。

響きはマッチしていると思います。どこまでも透き通る音が飛んでいく感覚は、やはりいいですね」

かつてのインタビュで、「大阪にはラテンの血を感じる」と三浦は言った。

「今回は、まさにラテンな曲が並びプログラム。とても気合が入っていますし、新しい自分を聴いていただけることを信じています。ぜひお越しください。熱い時間になると思います」

(取材・文 道下京子)

[バンドネオン] 三浦一馬 [ヴァイオリン] 石田泰尚
[コントラバス] 高橋洋太 [ピアノ] 山田武彦 [エレキギター] 大坪純平

[1st stage -古典タンゴ-] O.マデルナ:降る星の如く/G.M.ロドリゲス:ラ・クンパルシータ/M.モーレス:ウノ/C.ガルデル:ホル・ウナ・カベサ(首の差で)/E.バルカルセ:ラ・ボルドーナ/C.ガルデル:わが懐かしのブエノスアイレス/C.ガルデル:想いの届く日 [2nd stage -ピアノソラ-] アストル・ピアソラ:92丁目通り/アディオス・ノニーノ/プレバレンセ(用意はいいか)/キチョ/五重奏のためのコンチェルト/リベルタンゴ

2018.12/14(金) 7:00PM

全席指定 4,000円(税込)

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] テレビマンユニオン/ザ・シンフォニーホール

先行予約: 7/26(木) 一般発売: 7/29(日)

東京佼成ウインドオーケストラ 第3回大阪定期演奏会

KAH CHUN WONG

TOKYO KOSEI WIND ORCHESTRA



カーチュン・ウオン

Interview



東京佼成ウインドオーケストラ

©Atsushi Yokota

カーチュン・ウオンが指揮した演奏会をザ・シンフォニーホールで聴いたとき、さまざまな音色の狭間をくぐりぬけ、虹の中を飛行しているような心地になった。会場は拍手と歓声の旋風が巻き起こっていた。

1986年、シンガポール生まれ。2016年第5回グスタフ・マーラー国際指揮者コンクールで優勝し、これまでベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団など世界中の名門オーケストラと共演。9月にはニュルンベルク交響楽団首席指揮者に就任予定という、彗星のごとく現れた若手指揮者だ。日本でのオーケストラの共演においても、すごい指揮者が現れたと絶賛され、注目度が加速している。

そんな彼が、東京佼成ウインドオーケストラ（以下TKWO）の第3回大阪定期演奏会に登場する。「7歳からホルネットをやっていたのですが、中学生の頃、コンテストに向け、先生に勧められて初めて買ったCDが、TKWOのCDだったので。生まれて初めて聴くプロのウインドオーケストラの演奏に心を打たれ、CDを大きな音で流しながら、自分も一緒に演奏をしていました」と、はにかむ。

今回のプログラム、バーンズ《呪文とトッカータ》とヴァンデルロースト《交響詩「スパルタクス」》は、高校生のときに出了たコンテストの課題曲だったという。そしてアーノルド《ピーター・ラビット》は大好きな曲だと目を輝かせる。

「讃美歌のような始まりから、突然リズムをともなつて軍隊がやってくるような、戦いが描かれていきます。でもオーボエ、クラリネット、サクソフが、人間の力強さ」を表現していて、クライマックスは、教会のベルが鳴って天国への扉が開くような……誇りをもって、この戦いに勝ったのだ」という心情が描かれた、大作だと思っています。

ラストを飾るのは、高橋徹編曲のムソルグスキー《組曲「展覧会の絵」》。有名なM. ラヴェル編曲版とはまた違った、吹奏らしい表情が楽しめるだろう。

「オーケストレーションされた作品からの編曲が多いが、高橋徹さんはオリジナルのピアノ曲から編曲をしています。弦楽器を管楽器に置き換えようとせずに、サクソスは

サクソスのためのフレーズで作られている。金管や木管楽器の色合いをすべて表したカラフルな描かれ方がされていて、また違った方向から「展覧会の絵」の魅力が味わえると思います」

自身が思い入れのあるプログラムを、憧れのTKWOと一緒に奏でる。ザ・シンフォニーホールに輝かしい音色が響き渡るに違いない。

「TKWOと共演できることに喜びが溢れています。私たちは、パフォーマンス（演奏）を作り、届けるだけでなく、オーケストラと指揮者、ホールとお客様、すべてが一体となって素晴らしい音楽を作り出していきたいと思っています。たくさんのお客様にコンサートに来て楽しんでいただき、それが起きることを願っています。

（取材文 金子真由）

[指揮] カーチュン・ウオン

[吹奏楽] 東京佼成ウインドオーケストラ

J.バーンズ:呪文とトッカータ/J.ヴァンデルロースト:交響詩「スパルタクス」/M.アーノルド(近藤久敦編曲):ピーター・ラビット序曲/M.ムソルグスキー(高橋徹編曲):組曲「展覧会の絵」

2018.11/24(土) 7:00PM

S 5,000円 A 4,000円 B 3,000円(税込)

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ] 東京佼成ウインドオーケストラ 03-5341-1155

[主催] 佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ/ザ・シンフォニーホール

Shion&佼成セット券 S 9,000円(各公演1枚ずつ計2枚)

※オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ対象公演:11/25(日)第122回定期演奏会

※ザ・シンフォニー チケットセンターでの取扱はございません。

[Shion&佼成セット券ご予約] TKWOチケットサービス
0120-692-556

Sinfonia会員先行販売中 一般発売:7/11(水)

関西フィル 第4回 親子定期演奏会

学校や塾では体験できない、
本物の感動に出会う親子コンサート

Interview



©s.yamamoto

関西フィルハーモニー管弦楽団

©青柳聡



指揮 藤岡幸夫



藤岡幸夫の軽快なトークもお楽しみください！

「音楽を聴いている時の子どもたちの表情を、ぜひ見てあげてください。ものすごくいい表情するんだから」
そう話してくれたのは、関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者の藤岡幸夫。8月2日、彼が指揮とお話を務める「関西フィル親子定期演奏会」が第4回を迎える。

この「親子定期演奏会」の大きな特色は4歳以上の子どもたちと、そのお母さん、お父さんを対象にしていること。音楽に合わせて一緒に歌ったり踊ったりを楽しむ年齢から少し成長して、きちんと音楽が鑑賞できるようになった子どもたちと家族に向けて、親子で満足できるコンサートを届けていく。

歴史を振り返れば子どもたちのためのコンサートは玉石混交。だけどそうじゃない、子どもたちのためのコンサートこそ本物でなければいけない、と藤岡は語る。

「僕と関西フィルが毎年、大切に取組んでいるコンサート。ご家族みんなで楽しんでいただきたいと思っています。オーケストラの演奏を聴くのは初めて、という子どもたちにも、きっと楽しかったな！と思うてもらえるプログラムになっていますよ」

そこには、エルガーの行進曲『威風堂々』第1番やロッシーニの歌劇『ウィリアム・テル』序曲より、スイス軍の行進など耳に馴染んだ作品から、チャイコフスキーの弦楽セレナーデや歌劇『カヴァレリア・ルステイカーナ』の間奏曲のように、子どもたちが初めて出会うであろう作品までが、宝宝箱のように散りばめられている。そんな「知ってる」と、初めて興味を誘われて、彼らは目を輝かせるのだ。もちろん子どもたちと一緒に、これから音楽に親しんでみようというお母さん、お父さん世代にもぴったりの内容となっている。指揮者の表情まで見ることのできる「マエストロ・ビュー」席の設定も楽しい。

「僕の忘れられない思い出は、小学校5年生の頃、両親に連れられて初めてオペラ『椿姫』を観に行った時のこと。あの『前奏曲』がピットの中から聴こえてきた時に、背筋になんとも言えない感動が走りました。僕が指揮者になりたい、と初めて思ったのはその時だったと思います」
家族の心にいつまでも刻まれる演

発売中

[指揮・お話] 藤岡幸夫 [管弦楽] 関西フィルハーモニー管弦楽団

ショスタコーヴィチ:祝典序曲／チャイコフスキー:弦楽セレナーデより 第1楽章／エルガー:行進曲『威風堂々』第1番／レハール:ワルツ『金と銀』／マスカーニ:歌劇『カヴァレリア・ルステイカーナ』より 間奏曲／ボロディン:歌劇『イーゴリ公』より「だったん人の踊り」ほか

2018.8/2 (木) 2:00PM

大人 A 4,000円 B 3,000円 マエストロ・ビュー・シート 3,500円

小人 (4才～中学生まで) 一律1,500円(税込)

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ] 関西フィルハーモニー管弦楽団 06-6577-1381

[主催] 関西フィルハーモニー管弦楽団／ザ・シンフォニーホール

※4歳以上のお子様から入場可

奏の数々は、そんな感動を知っている藤岡だからこそ。そしてホールで生の音楽を聴くという体験を通して演奏への理解やマナーを深めることは、子どもたちの大きな成長につながっていくはずだ。
夏休み、ぜひ、たくさんの人たちにこの「親子定期演奏会」に足を運んでほしい。きっと、学校や塾では学べることのできない大切な何かが見つかるに違いないから。
(取材文 逢坂聖也／音楽ライター)



ベニー・チェチオル
日野原重明

昇天一年メモリアル&“愛のうた”収録CD発売記念

日野原重明プロデュース 「ベニー・チェチオル コンサート」

より強く輝きを増す日野原重明氏の魂のメッセージを
氏が生涯最高の歌手と讃えた奇跡の歌声に乗せて!!

[テノール] ベニー・チェチオル [ピアノ] クリスティアン・アガビエ
[ナビゲーター] 輪嶋 東太郎(ヴォイス・ファクトリー代表) ほか

【一部】トーク〜秘蔵映像とともに〜 【二部】「ベニー・チェチオルコンサート」オンブライフ／アヴェマリア／ゴットファーザー 愛のテーマ／ゴンドラの唄／長崎の鐘／ねむの木の子守唄／別れの曲／アメイジング・グレイス／愛のうた(日野原重明 作詞・作曲) ほか ※曲目は変更の可能性がございます。予めご了承ください。

2018.9/6(木) 1:30PM

S 7,000円 A 5,000円(税込)

[ご予約]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ]エス・ビー・エス 06-6204-0412

[主催]ヴォイス・ファクトリー/滋慶学園グループ/ザ・シンフォニーホール

発売中

「私の本当の仕事はこれから始まるんだよ。でもその時には私の身体はなにかもしいない」

日野原重明氏 最後の書籍となった「生きていくあなたへ 105歳どうして遺したかった言葉」(幻冬舎刊)の中でこの強烈な言葉を残し、この世を去って一年が経とうとしています。作者の死後に出版されるという異例の同書籍はすでに30万部を超えるベストセラーになりました。そこに収められた人生最後の渾身のメッセージは氏の死後、益々多くの人々を奮い立たせています。氏がその最晩年に情熱を傾けた事業がありました。100年以上の人生の中で、歌を通して神を初めて感じたという韓国人テノール ベニー・チェチオルにより全国で公演を重ねたのです。そこには「この歌声を届けることが、自分のできる世界平和への貢献である」という強い思いがありました。ザ・シンフォニーホールでは2014年から4回にわたり開催され、毎回会場が総立ちの歓声に包まれる絶大な感動を与えました。

このコンサートは今後も長く続けていくことに大きな喜びと期待を寄せていた日野原氏。本公演でも、日野原氏の「本当の仕事」が、あなたの心を生きる力と喜びで満たすことでしょう。前半では氏の最晩年の貴重な未公開映像とともに氏が残したメッセージをお届けします。後半は奇跡のテノールと称されるベニー・チェチオルによる演奏をたっぷりとお楽しみいただきます。生涯忘れがたい感動があなたを待っています!

細川千尋ジャズライブ CLASSIC×JAZZ

ホールの響きを活かし、ピアノトリオで
聴かせる「クラシック×ジャズ」

[ピアノ] 細川千尋 [ベース] 鳥越啓介 [ドラム] 石川智

グノー＝J.S.バッハ:アヴェ・マリア/ガーシュウィン:サマータイム/ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ/細川千尋:バガニーニの主題による“ジャズ”変奏曲/ケンプフェルト:L-O-V-E/バーカー:マイ・リトル・スエード・シューズ/細川千尋:Pasión ほか

2018.9/28(金) 7:00PM

全席指定 4,000円(税込)

スペシャルシート 5,500円(100席限定/4,500円+スパークリングワイン1杯付き)

[ご予約]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ]テレビマンユニオン 03-6418-8617

[主催]テレビマンユニオン/ザ・シンフォニーホール

発売中

Interview



細川千尋

鳥越啓介

石川智

©Ai Ueda

昨年と今年のバレンタインデーに、大阪交響楽団との共演で客席を沸かせたジャズピアニスト細川千尋が、9月にザ・シンフォニーホールに帰ってくる! 今度は、アルバム『CHERRY O』(2017年11月19日発売)発表を前に、鳥越啓介(ベース)と石川智(ドラム)というベテランの二人と結成したトリオでの登場だ。細川の新たな魅力・実力をたっぷり堪能できそう。

「クラシックをジャズにアレンジすることは、とても勇気のいることでした。クラシックは楽譜の上で完成しており、原曲の良さを殺したくない。一方、自分なりの思いを込めてジャズ・アレンジしたいという気持ちも。その狭間に身を置くことは大変ですが、面白いところでもあります。アレンジする勇氣は、敬愛をもって作品と向き合うことでしか得られません」

曲目は、「生き方に共感を覚え、少し自分と似ている」と語るガーシュウィン、そしてガーシュウィンと同時代人で彼が尊敬を寄せていたラヴェルやドビュッシーの作品、さらには細川のオリジナル作品「バガニーニの主題によるジャズ変奏曲」、ケンプフェルトやバーカーのジャズ・スタンダードナンバーも取り上げる。

「クールかつチャーミングな鳥越さんと、優しく寄り添ってくれる石川さんとのトリオは、共演のたびに変化を遂げています。残響豊かなザ・シンフォニーホールでしかできない表現を、関西のみなさんにお届けするのを楽しみにしています」

(取材・文 飯田有抄)



プロジェクションマッピング×パイプオルガン 帰ってきた!! 超絶のスター・ウォーズ ～やっぱり、パイプオルガンがスゴ過ぎる!!～

やっぱりスゴい!? あの人気`超絶、シリーズが今夏も帰ってくる!

[オルガン] 石丸由佳

「インディ・ジョーンズ」より レイダース・マーチ/「ハリー・ポッター」より メドレー★ ～ プロローグ - ハリーの不思議な世界 - ヘドウィグのテーマ ～/「E.T.」より フライング・テーマ/「ジョーズ」より メイン・タイトル/「ジュラシック・パーク」より テーマ★/「スター・ウォーズ」より メドレー★ ～ メイン・タイトル - 帝国のマーチ - レイア姫のテーマ-王座の間とフィナーレ～/「バック・トゥ・ザ・フューチャー」より テーマ★/「パイレーツ・オブ・カリビアン」より 彼こそが海賊★ (★プロジェクションマッピング付き)

2018.8/24(金) 7:00PM

全席指定 2,700円(税込) ※4歳以上から入場可 ※休憩なし。約60分間のコンサートです。

[ご予約・お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 [主催] ザ・シンフォニーホール

発売中

スイス・クーン社製の豊麗でロマンティックな音色が魅力のパイプオルガンは、ザ・シンフォニーホールの顔のひとつ。その名器とプロジェクションマッピングのコラボレーションによる人気シリーズ「超絶のスター・ウォーズ」が今年も帰ってくる!

演奏者は、当ホールの常連で、情熱的な音楽性と洗練された技巧を備えた若き名手・石丸由佳。そして、プログラムの中核をなすのは、今年6月に最新作「ハン・ソロ」が公開された「スター・ウォーズ」をはじめ、「ハリー・ポッター」「E.T.」「ジョーズ」「ジュラシック・パーク」など、大ヒット映画音楽の巨匠ジョン・ウィリアムズが手がけた珠玉の名旋律だ。

さらに、「バック・トゥ・ザ・フューチャー」「パイレーツ・オブ・カリビアン」といったアドヴェンチャー大作も並び、オルガンを中心にして映し出されるタイムマシーンや煌びやかな海賊船の迫力満点の映像は、音と光の新たな融合と楽しみ方を体感させてくれることだろう。

今回のサブタイトルとなっている「やっぱりパイプオルガンがスゴ過ぎる」に、聴き手の誰もが納得すること間違いなしの必聴公演だ!

なお当シリーズは、2016年の第1回が即完売で、17年の第2回は追加公演を開催。8月26日に行われるもうひとつの「超絶」シリーズ、「超絶のオペラ座の怪人」のチケットもすでに完売しているの、皆様くれぐれもお聴き逃しなく!!

(文 渡辺謙太郎)

ボニージャックス

結成60周年記念コンサート「昭和歌暦」
—ともに歌おう!心ゆかしき昭和の調べ—

活動60周年!円熟したハーモニーで
懐かしい昭和の調べを披露!

[出演] ボニージャックス(玉田元康、鹿島武臣、吉田秀行、西脇久夫)

[ピアノ] 斉藤久実 [ゲスト] 大阪稲門グリークラブ、大和まほろば合唱団、音楽の森むらうコーラス、コールピュアランド

ちいさい秋みつけた/あさみの歌/喜びも悲しみも幾歳月/北帰行/白い花の咲く頃/Dry Bones (ほか)

2018.9/27(木) 2:00PM 全席指定 5,000円(税込)

[ご予約] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ] エス・ビー・エス 06-6204-0412 [主催] エス・ビー・エス/ザ・シンフォニーホール

発売中

Interview



結成60周年を迎えたボニージャックスは、昭和の日本3大男性コーラスグループとしてダークダックス、デュークエイセスとともに時代を牽引し、「ボニージャックス・ストーン」と呼ばれる柔らかなハーモニーで、普遍的に愛される楽曲「小さい秋みつけた」「手のひらを太陽に」などを世に広めてきた。5000曲以上のレパートリーを保持し、今なお精力的な活躍を続ける。

「60年続けてこられたのはたまたま(笑)。運が良かったのは、1人が倒れても残りの3人が元氣だったこと。4人というのは支え合うのに非常にいい人数なのだと思います」(鹿島武臣)

現在、各地で結成60周年記念コンサートを開催中の彼らが今秋、ザ・シンフォニーホールにやってくる。

「15年前に加入した僕は、大阪での単独公演は今回が初めてなので楽しみです」(吉田秀行)

本公演では日本の童謡、叙情歌、歌謡曲を中心とした懐かしい昭和の楽曲に加え、彼らのキャリアに裏づけされたテクニカルな声のアンサンブルが堪能できる黒人霊歌の名曲「Dry Bones」も披露する。

4人の円熟した歌声の他に、地元の合唱団と奏でるハーモニーにも注目だ。「4人で歌うのとはまた違った迫力が味わえると思いますよ」(西脇久夫) さらにお客さんと一緒に歌うプログラムも用意されている。

「テーマは、ともに歌おう!。見て聴いて、歌って。一緒に楽しめましょう!」(玉田元康)

(取材・文 東條祥恵)



BACH IS IN THE AIR ~バッハとジャズが会う時~ イタリアを騒然とさせたあの男たちがついに初上陸!!

イタリアのクラシック、ジャズ界の重鎮たちが繰り広げるバッハ

バッハの音楽は古く、そして新しい。時空を越えてバッハの音楽に新風を吹き込み、イタリアを中心に世界で話題をさらっている二人のピアニストが、ザ・シンフォニーホールに初登場する。

イラン出身で現代の若きバッハ弾きとして評価を高めているラミン・バーラミとイタリアのジャズ界の重鎮として君臨するダニロ・レア。異なるジャンルで活躍する二人があつと驚く仕掛けでバッハを聞かせる。ここに即興を加えて演奏します」というレア。バッハのエッセンスをいかしながら、生き生きとしたジャズのエスプリも加えてモダンで小粋な演奏を披露してくれる。

プログラムは、「主よ、人の望みの喜びよ」「G線上のアリア」や「ゴルトベルク変奏曲」の「アリア」などバッハのおなじみの名曲が揃うが、これまでとはまったく違う敬虔かつ瑞々しいバッハに出会うことができるだろう。「日本のみならず、バッハへの私たちの愛を捧げたい」という鬼才二人に期待である。

(文 伊藤制子)

発売中

[ピアノ] ラミン・バーラミ/ダニロ・レア

J.S.バッハ:ゴルトベルク変奏曲 BWV988より「アリア」/心と口と行いと命と BWV147より「主よ、人の望みの喜びよ」/平均律クラヴィア曲集より前奏曲 第1番 BWV846/管弦楽組曲 第3番 BWV1068より「G線上のアリア」/無伴奏ヴァイオリン・パルティータ 第1番 BWV1002より「サラバンド」 ほか

2018.9/12(水) 7:00PM

S 4,320円 A 3,240円 (税込)

[ご予約・お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

[主催]イタリア文化会館・大阪 / ザ・シンフォニーホール



[バリトン] 小松英典 [ピアノ] 田中悠一郎
[おはなし] 芳村真理

荒城の月/秋の月/かやの木山の/鐘が鳴ります/秋の夜/待ちぼうけ/舟歌/くちなし/さびしいカシの木/しぐれに寄する抒情/松島音頭/落葉松/山の煙/北上夜曲/忘れな草をあなたに/見上げてごらん夜の星を/遠くへ行きたい/川の流れるように/愛のフィナーレ

2018.10/20(土) 7:00PM

全席指定 3,240円 (税込)

[ご予約・お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中

美しき日本のうた「秋の月」

この秋聴きたい、日本の懐かしく美しい名曲たち。

ザ・シンフォニーホールが、明治、大正、昭和と長きにわたり愛され、歌い継がれてきた日本の名曲をお届けする「美しき日本のうた」コンサート。3年目の開催となる今年も、ドイツ歌曲の第一人者であり、独政府から永久プロフェッサーの称号を与えられたバリトン歌手小松英典が登場し、美しい旋律を歌い上げる。

プログラムは、「荒城の月」、「舟歌」、「忘れな草をあなたに」、「北上夜曲」、「川の流れるように」など全19曲。愛や夢、希望、青春、情景をテーマに、喜び、楽しみ、寂しさ、戸惑いなど様々な心模様が描かれた楽曲たちは、懐かしい、あの頃を蘇らせ、小松英典の郷愁と温かさに満ちた艶熟な歌声がよりいっそう聴く人の胸を心地よく高鳴らせてくれるだろう。

今回は、モデル、女優、司会と多岐に渡り活躍してきた芳村真理が「おはなし」を担当。秋の夜に充実したひとときを味わえるコンサートに、ぜひ足を運んでいただきたい。

シャンソン・セレクション2018

選りすぐられたシャンソニエ11人がザ・シンフォニーホールに集結!



[出演] 峰 大介/奥田真祐美/条 頭/福井晶子/神奈あい/末広真樹子/松本かずこ/豪 佑樹/松井江里子/山口れい子/小嶋英子

2018.11/6(火) 6:00PM

全席自由 6,000円 (税込)

[ご予約]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[お問合せ]エス・ビー・エス 06-6204-0412

[主催]エス・ビー・エス/ザ・シンフォニーホール

発売中

2017年、来場したたくさんのシャンソンファンを沸かし、大団円で幕を閉じた「シャンソン・セレクション」が今秋も開催が決定! ザ・シンフォニーホールに実力派のシャンソニエ達が一室に会して歌絵巻を繰り広げます。出演者には、2017年にシャンソンデビュー45周年を迎えたキャリア充分の峰大介、これまで数々のCD、シャンソンをテーマにした書籍をリリースしてきた奥田真祐美、後進の指導にも力を注ぐ条頭。さらに、タレントから参議院議員を経験した経歴を持つ末広真樹子や元宝塚歌劇団の神奈あいなど、関西のシャンソン界を牽引する、多彩なメンバー11人が続々と登場し、華やかなステージを皆さまにお届けしていきます。

今年も強力なバックバンドを従えて、お客様の心の琴線に触れるシャンソンの名曲の数々を歌い上げます。是非とも会場で共に心をとぎめかせましょう!

未来へ継承したい 最高の音楽

ザ・シンフォニーホールとアーティストが生み出す

Artist-in-Residence Special Talk

「芸術文化を未来へ継承する」。ザ・シンフォニーホールの使命を担って生まれた、ザ・シンフォニーホールの弦楽合奏団とビッグ・バンド。
今回は、プロデューサーである同ホール取締役ゼネラルマネージャー
音楽総監督の喜多弘悦と、田野倉雅秋(ザ・シンフォニーホール弦楽合奏団
ストリング クインテット)、菊池寿人(ザ・シンフォニーホール・ビッグ・バンド)に
結成からこれまでを振り返り、それぞれの思いを語り合ってもらった。



田野倉 雅秋(ヴァイオリン)
The Symphony Hall String Quintet
大阪フィルハーモニー交響楽団 首席コンサートマスター



菊池 寿人(トランペット)
The Symphony Hall Big Band
ミュージックディレクター

Sing」と書いてあっても、未だ聴いたことのない「Sing, Sing, Sing」を聴くことができる。これは毎回楽しみにするよね。難しい演奏を、いとも簡単にやって見せて、お客様にカッコよく、心地よく音を届けていく。

森林浴をしているような
ザ・シンフォニーホールの心地良さ

田野倉 15歳の時、ザ・シンフォニーホールで初めて弾かせてもらったんですが、「ああ、こんなに素晴らしいホールがあるんだ」と感じました。今もその気持ちは変わりません。良質の木をふんだんに使ったホールの中の色合いは、僕たちが持っている弦楽器と同じですから、親近感もありますし、一緒に響きを作るのが心地良すぎて、充実した演奏ができます。

喜多 ゴージャス感のある石を多用したホールが多い中、ザ・シンフォニーホールは、音楽を聴くのに最高の空間作りにつながり抜いて生まれたホールなので、ホール一つ一つの部材にこだわって、木を多用していますからね。木の中で響く、木の楽器の何ともいえない落ち着きをあたえてくれる。いわば森林浴みたいなものですよ。
菊池 確かに、森林浴ですね。ジャズは、よくクラブハウスなど、こじんまりしたところで演奏することが多いのですが、それと比べたらゆったり感もゴージャス感もやっぱり違います。2回目に録音して初めて分かったことです。自然のリバーブ(残響)というか、機械では作れないホールの響きがあるんですね。その響きを最大限に利用して、さまざまな楽器とコラ



ボレーションすることによって、今後はさらに響きを研究していきたいです。

メンバーそれぞれの個性
全身と五感を使った演出

喜多 それぞれの今後どのようなコンサートをお客様に届けていきたいですか？
田野倉 メンバーそれぞれ個性が強い反面、対応力もある。でも対応力ばかりだと飛びぬけるものが弱くなるので、「もっともっと個性を出していこうよ」と話をしています。アイデアを出し合って、それをみんなで見えさせて、コンサートで発揮していきたいですね。

今後のプログラムは小品集のような曲を散りばめて、一人がソロを弾いて、伴奏するような曲も入れたいな。と。そして、小説や映画のように、物語が流れるような2時間を作っていきたいですね。

喜多 私たちが大切にしていることは、ザ・シンフォニーホール自体を文化とらえて、この文化を未来へ継承することです。ホールという“物”と“人”が力を合わすことで出来る上がる芸術が重要。田野倉さんを中心にした弦楽アンサンブルと、菊池さんというプレイヤーが作り上げるビッグ・バンド。この大切な2つのアンサンブルの活動を、ホールとして、どうお手伝いしていけるかが課題です。“これぞ弦楽アンサンブル”“これぞビッグ・バンド”というものを様々な提案して、たくさんのお客様に“こんな素晴らしい音があるのだ”と体感してほしいです。

田野倉 そんな喜多さんの思いを受けて、僕は、ストリング クインテットとしてコンサートを重ねていくうちに、“あの人たちが演奏しているのを聴いてみたい”というような感覚も大事にしていきたいと思いました。ストリング クインテットの5人が演奏するから聴きに行きたい、とお客様に感じていただきたいです。

菊池 ビッグ・バンドは、毎回様々なジャンルのゲストアーティストを迎えてコンサートを行っています。この顔ぶれだからこそ、この曲はこんなスタイルでアレンジしよう“など、メンバーの顔と得意技を思い浮かべながらアレンジするところが面白いのではないかと思います。ザ・シンフォニーホール・ビッグ・バンドならではのですね。

喜多 ビッグ・バンドは、毎回のプログラム、ほとんど全曲をアレンジしています。それが大きな個性になっていると思うんですね。プログラムに「Sing, Sing,

喜多 田野倉さんの演奏を聴いていて、すごいなと思うのは、オーケストラで演奏しているとき、コンサートマスターとして“こーこー”というときは、姿勢も顔の表情も全然違う。全身と五感を使って表現している。お客様には、そういうところも感じてもらいたいですね。

菊池 ビッグ・バンドは、バフォーマンスはすごく意識しています。ソロで演奏するときの仕草であったり、音であったり。“全員で客席へ出てみよう”というバフォーマンスをしたら、とても喜んでくれたのは嬉しかったですね。10回目のコンサートを終えて、やっとザ・シンフォニーホール・ビッグ・バンドのサウンドになってきたなと。これからは迫力ある楽しい演奏をより多くのお客様に広めていきたいです。

喜多 2つのアンサンブルを通じて、お客様が気軽に演奏会に足を運べるようになってもらいたいなと思います。両公演とも、演奏者による分かれやすい解説があり、話すのが苦手そうなプレイヤーたちの飾らないトークがまた面白い(笑)。クラシックに馴染みがない方にも、ぜひ一度足を運んで、聴いてもらえれば、至福の時間を過ごしていただけると思います。

(取材文 金子真由)



The Symphony Hall String Quintet

Vol.4
2018.
9/3(月)
7:00PM

新たな室内楽の楽しみ方を提案し続ける 弦楽五重奏団の秋コンサート

モーツァルト：ディベルティメント 変ロ長調 K.137
ヤナーチェク：弦楽のための組曲
ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第9番 イ長調「クロイツェル」 op.47
(作曲者による弦楽五重奏版)

全席指定 2,160円(税込) 発売中

写真左から 田野倉雅秋(ヴァイオリン) / 岡本伸一郎(ヴァイオリン)
村田和幸(コントラバス) / 北口大輔(チェロ) / 木下雄介(ヴィオラ)



ザ・シンフォニーホール弦楽合奏団 ストリング クインテット

[ご予約]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 [お問合せ]大阪アートエージェンシー 072-648-3852 [主催]ザ・シンフォニーホール

The Symphony Hall Big Band

お得な3回セット券発売中! S席のみ 12,960円(税込)

Vol.11
2018.
7/24(火)
7:00PM

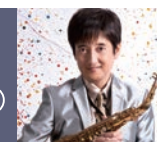


スペシャルゲスト
古澤 巖
ヴァイオリン

ロベルト・ディ・マリーノ：Olas★ / Margarita★
リチャード・ロジャース：My Funny Valentine★
ピー・ウィー・キング：テネシー・ワルツ
ジョン・バリ：映画「007」より ジェームズ・ボンド・メドレー ほか
★古澤巖 最新アルバム「スウィング・フーガ」より

<7/24公演のみのご購入>
S 5,400円 A 4,320円 B 3,240円(税込) 発売中

Vol.12
2018.
10/30(火)
7:00PM



スペシャルゲスト
本田 雅人
サクソ

本田雅人：THEME FOR B.B.S.
FAIR AFFECTION, MEGALITH
ヘンリー・マンシーニ：酒とバラの日々
Frederick Loewe：
ミュージカル「My Fair Lady」より「君住む街角」 ほか

<10/30公演のみのご購入>
S 5,400円 A 4,320円 B 3,240円(税込) 発売中

Vol.13
2019.
1/22(火)
7:00PM



スペシャルゲスト
加藤 ヒロユキ
テノール

※曲目は追ってシンフォニアでお知らせいたします。
今年1月に登場した加藤ヒロユキが、2019年の1月にもスペシャルゲストとして登場することが決定!
3度目の共演となるステージ!息のびったり合ったオリジナルティ溢れるステージをご期待ください。

<2019. 1/22公演のみのご購入> 9/20(木)先行
S 5,400円 A 4,320円 B 3,240円(税込) 9/23(日)一般

[ご予約]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 [お問合せ]大阪アートエージェンシー 072-648-3852 [主催]ザ・シンフォニーホール